江戸幕府の政治改革のくらべ

幕府は財政難や社会の変化に、どのように対応しようとしたか



	享保の改革	田沼の政治	寛政の改革	天保の改革
	1716〜45年　8代将軍 徳川吉宗	1772〜86年　老中 田沼意次	1787〜93年　老中 松平定信	1841〜43年　老中 水野忠邦
背景	幕府の財政が苦しくなる	年貢だけでは収入がのびない	天明のききん・打ちこわし	天保のききん・大塩平八郎の乱
主な政策	・大名に米を納めさせる（上げ米） ・新田の開発をすすめる ・裁判の基準を定める（公事方御定書） ・目安箱で庶民の意見を聞く	・商工業者の株仲間を認め、税をとる ・長崎での貿易で輸出をふやす ・大きな沼の干拓に取り組む	・ききんに備えて米をたくわえる ・旗本・御家人の借金を帳消しにする ・幕府の学校で朱子学以外を禁じる	・株仲間を解散させる ・ぜいたくを禁じる（倹約令） ・江戸に出た農民を村に帰す ・江戸・大阪周辺を幕府の領地にする
結果	年貢が増え、財政が一時立ち直る	わいろが広がったと批判される ききん・一揆・打ちこわしで失脚	厳しい統制に不満が高まり、 6年ほどで終わる	大名・旗本の反対で、 2年あまりで失敗する

共通する背景：年貢（米）にたよる収入に対し、商業の発達で支出が増える → 財政難。ききんのたびに百姓一揆・打ちこわしが増える。

年は老中・将軍が政治を進めた期間の目安。政策は代表的なものに絞った。